

購読者に電子メールで送信したものをそのまま掲載しています。等幅フォントでお読みください。

< C U E > 利用教育委員会通信 第 60 号 (16 巻 4 号) 2006. 2. 10 発行

■■■■ ■ ■■■■ 利 用 教 育 委 員 会 通 信
■ ■ ■ ■ ■ 日 本 図 書 館 協 会 図 書 館 利 用 教 育 委 員 会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・ 「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・ < C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・ 利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・ メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第 6 回「図書館利用教育実践セミナー」のお知らせ
- (2) 第 7 回図書館総合展フォーラム講演会の報告
- (3) 編集後記
- (4) 利用教育委員会委員

-
- (1) 週末は指導サービス専門家に变身！
第 6 回「図書館利用教育実践セミナー」のお知らせ

● 2006 年 3 月 18 日 (土) 10:00-12:00

情報検索指導における良い例題・悪い例題 (初級編)
— 素材を集め問題を作り要点を説明する方法 —

講師：仁上幸治 (早稲田大学図書館)

図書館による情報検索の講習会や授業の中で、わかりやすい説明をするには適切な例題が必要である。しかし、いざ実際に例題を作るとなると

そう簡単ではない。インターネットの検索エンジンで検索できる範囲、無料サイトと有料データベースの差、書誌検索と所蔵検索の違い、検索ツールの種類、電子化以前と以後、などの基礎知識を理解してもらうにはどんな例題が良いのか。どのサイトでどんな検索語と検索式を見せるのが適切か。今回は、これから講習会を始めたい方、改善したい方向けに、良い例題・悪い例題の実例を紹介し、素材の集め方からプレゼンテーションまで、実践上のポイントを提示する。

■会 場：キャンパスプラザ京都 第3講義室（4階）

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

（JR 京都駅ビル駐車場西側） TEL. (075) 353-9111

<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/>

■対象者：図書館職員、教職員、JLA 会員、関係団体、他

■主 催：日本図書館協会（JLA）

■参加費：会員 500 円／非会員 1000 円

■申 込：下記申込書を電子メールで送信。宛先：事務局：久保木：
cue@jla.or.jp。

■定 員：170 名（先着順）

■締 切：3 月 10 日（金）

■詳 細：JLA 図書館利用教育委員会 HP：<http://www.jla.or.jp/cue/>

■備 考：今回のセミナーでは、昨年 5 月 27 日に開催された第 5 回フライデーナイトセミナー（現、図書館利用教育実践セミナー）の内容を改訂して再演します。場所は京都で開催します。

●申込書

《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：

第 6 回 [2006 年 3 月 18 日(土)]

■申込日：

■氏名（氏名ヨミ）：

■JLA 会員／非会員（会員の場合は会員番号：_____）

■所属：

■住所：

■電話番号：

■電子メール：

■例題づくりで困っている点：

■質問・要望など：

※記入いただいた情報は、今回の研修の企画・運営の参考にするほか、
今後、研修等の情報をお送りする場合などを除き、利用、公表する
ことはありません。
=====

(2) 第7回図書館総合展フォーラム講演会の報告

子どもとメディアをめぐる問題とその解決法について言及
ーメディア・リテラシーの必要性を実感ー

日本図書館協会（企画・運営：図書館利用教育委員会）は、昨年11月30日、パシフィコ横浜で行われた第7回図書館総合展において、講演会を開催しました。今回は、田上時子氏（NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西理事長）を講師に招き、「子どもの生きる力、エンパワメントのためのメディア・リテラシー～図書館員による情報リテラシー支援～」というテーマで講演が行われました。

講演では、最近の刑事事件の動向、戦後日本における家族とメディアの変遷、メディアの定義、子どもとメディアの問題、メディア・リテラシーの必要性について述べられた。これらのうち、子どもとメディアの問題としては、メディアによる子ども観の形成、マスメディアの商業主義の影響、ネット社会での仮想と現実、映画やTVゲームにおける暴力シーンの影響、観察学習効果（※1）、脱感作効果（※2）などを挙げられました。さらに、上記の問題を解決するためには、メディアを利用する側がメディアを読み解き、分析し、表現する力（メディア・リテラシー）を身につける必要があると指摘されました。

この講演には、公共、大学、学校、専門図書館職員など51名が参加しました。アンケートでは、講演の内容について「大変良い」「良い」という回答が85.3%を占めました。講演の感想については、「メディア・リテラシーの必要性がよく伝わってきた」「講師の話が大変力強く、勢いがあってよかった」「メディアの政治的、社会的な問題点についてもっと話をしてほしい」「図書館におけるメディア・リテラシー支援について話を聞きたかった」などの意見が寄せられました。（K.H）

※1「観察学習効果」：テレビで示されたモデルの暴力行為を習得し、ある状況においてその暴力行為を模倣して実行すること。

※2「脱感作効果」：テレビの暴力シーンに多くさらされるとその暴力に慣れてしまい、何も感じなくなること。

参考文献：総務省「「青少年と放送に関する調査研究会」（第2回）議事要旨 添付資料7 国内外のテレビと青少年の行動に関する実態調査の状況 3. これまでの調査研究の主な成果」（URL 最終確認：2006年2月10日）
http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/policyreports/japanese/group/youth/youth_7.3.html

(3) 編集後記

電子メール版になって7号目の「通信」をお届けします。今号では、第6回「図書館利用教育実践セミナー」のお知らせを掲載しました。これまでのセミナーは東京（日本図書館協会の研修室）で開催していましたが、今回は会場を京都に移して開催することになりました。関心のある方はぜひご参加ください。多くの皆様のご参加をお待ちしております。
(春田)

(4) 利用教育委員会委員

(委員長)

毛利 和弘 : 亜細亜大学学術情報課

(委員)

青木 玲子 : 越谷市男女共同参画支援センター

赤瀬 美穂 : 京都産業大学図書館

有吉 末充 : 京都学園大学

石川 敬史 : 工学院大学図書館

木下 みゆき : 大阪府立女性総合センター情報ライブラリー

野末 俊比古 : 青山学院大学文学部

春田 和男 : 筑波大学大学院博士課程

和田 佳代子 : 昭和大学歯科病院図書室

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

・バックナンバー

<http://www.jla.or.jp/cue/>

・配信登録・変更・解除・お問い合わせ

cue@jla.or.jp

※本紙は Yahoo! Groups を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、ならびに本紙の内容と Yahoo! とは関係がありません。

[戻る](#)